

本指導案は、「2016年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

## 美術科学習指導案

### 「彫刻の居場所」

1. 題材名 ～「彫刻作品」と「空間」の響き合いを味わおう～

2. 題材作品  
イサム・ノグチ作《真夜中の太陽》  
1989年 赤と黒のスウェーデン産花崗岩  
高さ 220.5×幅 199.0×奥行 119.0cm  
コンスタンティン・ブランクーシ作《空間の鳥》  
1926年（鑄造 1982年）ブロンズ・石灰岩  
高さ 132.4×幅 35.5×奥行 35.5cm

※いずれも横浜美術館蔵

3. 実施学年 第2・3学年

4. 学習指導要領との関連 B鑑賞（1）ア、イ

5. 本題材について

多くの彫刻家が、作品のみならず、それらが置かれる空間を常に意識しながら制作を行っていることをふまえ、作品と空間が双方に関わり合うことで生じるイメージの変容を味わい、作品を幅広い見方・感じ方で鑑賞する楽しみや、美術を愛好する心を一層育み、生活空間を豊かにする美術の働きについて理解させることをねらいとし、本題材を設定した。

本題材では、横浜美術館のコレクションである、イサム・ノグチとコンスタンティン・ブランクーシの彫刻作品を鑑賞対象として取り上げる。身近な環境と美術との関わりや、抽象表現への理解を深めるための手立てとしても、本題材が有効に活用されることを願う。

6. 題材目標

彫刻作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、洗練された美しさなどを感じ取り、展示空間を含めて、作品を幅広い見方、感じ方で味わおうとする。

## 7. 題材の評価基準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
作品の形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。展示空間によって変化する作品の見え方や感じ方の変化に関心をもち、主体的に生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。	美術作品に取り入れられている形や色彩などの特徴や、印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。

## 8. 準備

指導者：作品図版…イサム・ノグチ作《真夜中の太陽》

コンスタンティン・ブランクーシ作《空間の鳥》

※作品を切り抜き、透明のプラスチック板に貼ったもの × 班の数分

デジタルカメラ、PC、ワークシート

実物の作品サイズが分かる資料（作品の実物大のシルエットに切り抜いた模造紙 等）



生徒：教科書、資料集、筆記用具

## 9. 授業展開（全2時間）

1	生徒の活動	教師の指導・支援
導入	① お気に入りの作品を部屋に飾るときに意識することを考え、作品と展示空間との関係に目を向ける。	・「お気に入りの写真や絵を部屋に飾るとき、何を意識して設置場所を決めるか」と発問し、作品と展示空間との関係に目を向けさせる。
展開 (1) 10分	<b>【作品と出会う】</b> ② グループ（3～4人）に分かれて、作品図版を鑑賞する。作品から感じとれるイメージや気付きを各自ワークシートに記入する。	<b>作品図版を配布する。</b> ・自由な見方、感じ方で鑑賞し、気づいたことや感じたことを記入させる。 ・机間巡視し、数名の生徒に全体の前で意見を発表させる。
5分	③ 紹介を聞き、作品に対する理解を深める。	・どちらも横浜美術館に所蔵されている作品であることを伝え、イサム・ノグチと横浜との関係に触れるなどして、作品を身近にとらえさせる。
5分	<b>【作品のスケールや素材を把握する】</b> ④ 壁に貼られた彫刻のシルエットを元に身近なものと大きさを比較するなどして作品のスケールを把握する。	<b>実物の作品サイズが分かる資料を提示する。</b> ・作品のサイズや素材の情報を伝え、自身の身長や身近なものと大きさを比較させるなどして、彫刻作品のスケールをできるだけ具体的にイメージさせる。

25分	<p><b>【デジタルカメラで撮影会】</b></p> <p>⑤ デジタルカメラと作品図版を持って校内をまわり、作品を展示した空間を想定しながら撮影を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品から感じ取ったイメージや、素材の特性が引き立つような展示場所を探すように伝える。</li> <li>・ 学校の実情に合わせて、撮影可能な場所をあらかじめ指示しておく。</li> </ul>
5分	<p>⑥ 教室に戻り、次時の授業内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次時の学習内容を伝える。</li> </ul>
2分		
展開(2)	<p>⑦ 前時の班に分かれ、全体鑑賞会に向けて以下の発表内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 彫刻の『居場所』について</li> <li>・ そこに展示しようと考えた理由</li> <li>・ 展示空間を含めた作品の題名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1班2～3分程度で発表できるように、ピックアップする写真や発表内容を班で検討させる。</li> <li>・ 作品の形や色彩、感じ取ったイメージとの関連から、なぜその場所が展示空間としてふさわしいと考えたのか、具体的に話し合わせる。</li> </ul>
15分		
25分	<p><b>【全体鑑賞会】</b></p> <p>⑧ 撮影した写真をテレビに写し、班ごとに発表を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示場所による作品の見え方や感じ方の変化に着目させる。</li> <li>・ まとめとして本来の作品の題名を伝え、作者の意図や思いに気づかせるとともに、自分たちの考えと比較して、作品についての理解や見方を深めさせる。</li> </ul>
10分	<p><b>【振り返り】</b></p> <p>⑨ 授業を通して気づいたことを振り返り、ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共空間に展示されているさまざまな作品例を教科書等で紹介し、作品と展示空間との関係や、生活を豊かにする美術の働きについて関心をもたせる。</li> </ul>

(指導案作成：横浜市立中学校教諭 吉田浩気／中澤 務／吉 綾子)

■ 指導案作成者からのメッセージ

イサム・ノグチは横浜とゆかりの深い作家であり、市内にもいくつかの屋外彫刻が設置されています。彼の作品の特徴である抽象的な形態は一見難解にも思われますが、色や素材の組み合わせがもたらす重厚な存在感や置かれる場所によって多様に変化するイメージは、観る者を引き付ける不思議な魅力をもっています。本題材を通して、作品だけでなくそれを置く場所との関係の中から、新しい美を見つける力を養ってほしいと思います。

■ 参考文献

- ・ 展覧会カタログ『イサム・ノグチ 世界とつながる彫刻展』横浜美術館、2006年
- ・ ドウス昌代『イサム・ノグチ 宿命の越境者』上下巻、講談社、2000年